

# 自己の内なる問題と向き合う国語教室の実際

——單元 ことばを贈る（中学校一年）の場合——

伊 木 洋

## はじめに

豊かな言語生活を育むため、大村はま先生の国語教室に学び得たことを基底に据え、学習者の実態をふまえて目標を設定し、学校図書館との連携を図って多様な学習材を準備し、適切な言語活動の「実の場」と学習のてびきを用意することに心を配ってきた。そのうえで学習記録を書くことによって自らの学びをみつめさせ、自己評価力を育て、自己学習力を身につけさせていくことを目指してきた。目の前の学習者と真に向き合って単元を構想し、ともに学習指導を進めていく。実践の積み重ねを通して、ことばの力、学ぶ力、生きる力を育てることこそ、大村はま先生の「理念」を大切にする道であると考えてきた。

## 一 自己の内なる問題と向き合うことの必要性

橋本暢夫氏は、『月刊国語教育研究No.515』の巻頭言において、豊かな言語生活を育むには、「①目標に即した『生活的な実の場』の設定、②絶えず『問題を発見』させる豊かな媒材と手引き、③一人ひとりの課題を克服させていく『自己評価力』への配慮、

④『学習のプロセスがそのまま学習力となる』営み」が必要であるとの提言を行っている。<sup>(注)</sup> ここには、豊かな言語生活を育むために、「生活的な実の場の設定」とともに、「問題を発見」させ、一人ひとりの課題を克服させていく「自己評価力」を育て、「学習のプロセスがそのまま学習力となる」営みの必要性が明らかにされている。

さらに、平成二六年一月二六日（土）、横浜市開港記念館で開催された大村はま記念国語教育の会横浜大会のシンポジウムにおいて、橋本暢夫氏は、次のように述べている。<sup>(注)</sup>

「学習のプロセスがそのまま学習力となる」ためには、学習者個々の内なる問題・克服すべき課題に気づかせ・発見させていくことが欠かせない。このとき、「書き 考える」活動を通じて、問題発見・課題の克服が図られていなくてはならない。

橋本暢夫氏は、「学習のプロセスがそのまま学習力となる」ために、「学習者個々の内なる問題・克服すべき課題に気づかせ、発見させていくこと」、「書き 考える」活動を通じて、問題

発見・課題の克服を図ること」の重要性を説いている。学習が真に学習者一人ひとりのものとなり、自己学習力を身につけさせるものとなっていくためには、自己の内なる問題と向き合うことが必要であるとの指摘である。

本稿では、橋本暢夫氏の提言を受けて、豊かな言語生活を育むべく実践してきた単元の中から「単元 ことばを贈る（中学校一年）」をとりあげ、単元の実際に即して、学習者個々の内なる問題・克服すべき課題にどのように気づかせ、発見させたか、「書き 考える」活動を通じて問題発見、課題の克服をいかに図ったかということについて考察を試みる。

## 二 自己の内なる問題と向き合う学習指導の実際 単元 ことばを贈る（中学校一年）の場合

（一）単元をはじめめるまで

平成二五年四月、書写の学習を中心として一年生を担当することになった。学習に向かう姿勢に大きな個人差が見られ、学習に真剣に取り組む、学びの質を高めようとする学習者がいる一方で、学習に対する基本的な構えが身についておらず、集中して学習に取り組むことが困難な学習者が各学級に複数在籍しているという実態があった。

国語科の学習としては、発達段階に即した基礎的・基本的なことばの力の定着が緊要な課題として浮かび上がってきた。話し手の意図をくみ取りながら一度で聞き取り、自ら考え判断し

ふざわしいあり方ができる力、聞き手の受け止めを意識しつつ、自らの考えをことばで的確に話す力、書くことがおっくうでなく速く正確にメモができ、感想など自らの考えを書く力、資料を活用して的確に読み、自らの考えを生み出す力、お互いの考えを理解し表現するために必要なことばについての知識・感性。何より実際に主体的に学習に取り組む体験を通して、学習に向かう姿勢を育てたいと考えた。

学習者の実態をふまえて、四月には「単元 国語学習（国語の特質に関する事項・書写）の準備」に取り組む、身につけたいことばの力、心がまえ、準備、学習記録などについて、学習者と共通理解を図った。五月には書写学習をスタートし、準備、姿勢、調息、起筆、運筆、基本点画の筆づかいなどの学習に取り組んで、学習に取り組む姿勢を少しずつ向上させていった。六・七月には楷書の学習として、字形の整え方、配列・配置についての学習を実施し、学習記録の整理に取り組んだ。九月、いろいろ歌を取り上げ、仮名文字を小筆で書く学習を行った。

楷書を書く基本的な力とことばの学習に取り組む姿勢を育てながら、「単元 ことばを贈る」の学習に入った。学習者には一学期のうちに二年生が一年生のときに取り組んだ「単元 大切にしたいことばをしたためる」の学習で作成した作品を見せ、基本的な力がこのように活用されるというイメージを具体的に持たせるとともに、ことばの学習に対する意欲を喚起していた。「単元 大切にしたいことばをしたためる」の作品は地域の公民館の文化祭に出品しており、目にしたことのある学習者もい

て、「わたしならこんなことばを書きたい。」「いつやるんですか。」など、学習者は「単元 ことばを贈る」の学習を楽しみにしていた。今回作成する作品は、学習で紹介し合うほか、学校の文化祭に出品すること、また、学校創立四〇周年の年にあつていたので、記念式典の日に来賓控室に掲示することを伝えて学習を始めた。

(二) 単元名 単元 ことばを贈る

— 字形・文字の大きさ・配列・配置を考えて書く—

(三) 対 象 鳥取県米子市立加茂中学校 一年生

(四) 実施年月 二〇一三(平成二五)年 九月～一〇月

(五) 単元目標

贈りたい相手にふさわしいことばを選び、字形・文字の大きさ・配列・配置などを考えて小筆で楷書作品を書き、紹介し合うことを通して、文字文化に親しむ態度を育てる。

(六) 指導目標

- 1 贈りたいことばにふさわしい効果的な文字の書き方を工夫しようとする。

- 2 字形・文字の大きさ・配列・配置を考えて小筆で楷書作品を書くことができる。

- 3 多様な語句に関心を持ち、贈りたい相手にふさわしいことばを選ぶことができる。

(七) 学習材 ことばに関する資料 八七冊(資料1)

(八) 言語活動

相手を決めて、多様な資料を活用して贈りたいことばを選び、

字形・文字の大きさ・配列・配置を考えて小筆で楷書の作品を書き、紹介し合う。

(九) 学習指導計画 (全5時間)

- 第1時 学習のめあてと学習の進め方を知り、作品のイメージを具体的ににつかむ。

- 第2時 相手を決めてことばを選び、下書きを書く。

- 第3時 練習する。工夫したいことを書く。

- 第4時 清書する。硬筆で作品に添えるコメントを裏面に書く。

- 第5時 作品を交流し合う。学び得たことを学習記録に書く。
- (十) 各時間の学習指導の実際

第1時では、改めて「単元 大切にしたいことばをしたためる」の先輩の作品を提示し、今回は、贈りたい相手を決め、ふさわしいことばを選んで書くことを伝えた。贈りたいことばを選ぶ言語活動が、自己の内なる問題に気づかせ、発見していく契機となることは、「単元 この一句をあの人に」など、「うた」に託して思いを伝える学習指導を通して、想定していた。<sup>(注3)</sup>

単元名と学習のめあてを板書し、学習のポイントを確認したうえで、学習のてびき1とブックリスト(資料1)を配付した。学習のてびきには、学習者一人一人が、学習のめあてに即して、学習全体の見通しを持って、自らの学習を組み立て、学習に主体的に取り組んでいくことができるよう、学習の進め方を具体的に示した。配付した学習のてびき1は次のようである。

学習のてびき 1 一年（ ）組（ ）番（ ）

単元 ことを贈る

— 字形、文字の大きさ、配列・配置を考えて書く—  
単元のめあて

相手を決めて、贈ることを選び、字形、文字の大きさ、配列・配置を考えて、小筆で楷書の作品を書き、紹介し合おう。

一 学習の進め方はこのように

(二) 学習のめあてを知り、作品のイメージを具体的につかむ。

\*学習活動

相手を決めて、贈ることを選んで書き、紹介し合う。

1 課題 相手を決めて贈ることを選んで書く

2 書体 楷書

3 用具 小筆

4 用紙 はがきサイズの用紙

\*学習のめあて

1 字形

2 文字の大きさ

3 配列・配置・行の中心・字間行間・行頭行末・余白

(二) 相手を決めてことを選び、下書きを書く。

(三) 練習する。工夫したいことを書く。

(四) 清書する。

ボールペンで、作品に添えるコメントを裏面に書く。

1 贈りたい相手

2 贈ることは

3 このことを贈りたい理由

4 私はここをこう工夫した

5 平成（ ）年（ ）月（ ）日 書

(五) 作品を交流し合う。

1 グループ交流

2 全体交流

(六) 学び得たことを学習記録に書く。

学習前後の変容を書く。

1 文献を活用して、贈ることを選んで、……。

2 グループで発表し合って、……。

3 全体交流を通して気づいたことは、……。

4 文字を書く際に、大切にしていきたいことは、……。

5 文字文化について考え（させられ）たことは、……。

6 単元全体を通して学び得たことは、……。

本単元の学習を既習事項の活用のもと位置づけ、1学期に学習してきた指導事項をふまえ、学習のめあてとして、「字形、文字の大きさ、配列・配置を考えて書く」ことを掲げた。

ブックリストは、図書職員の先生と事前に学習者の実態及び学習内容について打ち合わせを行って作成していった。優劣を意識せず、個人差に応じて生き生きと学習させるために、学校図書館との連携を図って多様な学習材を準備することは不可欠であった。選書した資料は、教室で活用できるよう、ブックトラックに積んで教室に運び入れておいた。

学習のめあてを確認した後、ブックトラックから実際に資料

を手にとって選べた。どのような人にどのようなことを贈りたいかということを通じて、学習者一人一人に資料を紹介することができた。なかなか学習に向き合えない学習者にも、ことは話題として指導する対話の場を得られた。資料を開いて、ことばについて話し合う姿が見られたが、しばらくすると、どの学習者も資料をめくりメモを取り始めた。

第1時の学習記録には、ことばを選ぶ活動を通して、自己の内なる問題と向き合っていくようですが次のように記されている。

『風のように水のように』

p 17 「人生は出会いと別れと涙あり」

p 60 「時が過ぎても変わらない悠久の事実である」

『誰かに伝えたい歌』

p 141 「また会えますように」

p 19 「光のさしこむ方へと」

p 50 「世界は澄みわたってる」

p 71 「キレイじゃなくなたって」

『星の王子さま』

「大切なものは目に見えない」

「単元 ことばを贈る」の学習で、本を眺めていると、良い言葉ばかりで、とても悩みました。家の本も探し出し、良い作品になるよう努めたいと思います。

(R・G 「国語学習記録 成長」)

米子市立加茂中学校 一年一組 平成二五年九月二〇日

『ひらけーどア』

p 48・49 「私を飛び越えるきっかけはすぐそばにある」

「単元 ことばを贈る」の学習をはじめて、友達に贈りたい言葉がたくさんありました。自分にも贈りたい言葉がたくさんありました。

(A・Y 「国語学習記録 言葉の大切さ」)

米子市立加茂中学校 一年一組 平成二五年九月二〇日

R・Gさんは、学習記録に「良い言葉ばかりで、とても悩みました」、A・Yさんは「自分にも贈りたい言葉がたくさんありました。」と記している。ここには、ことばを選ぶ言語活動を通して、自らの内なる問題と向き合っていく姿が示されている。

第2時は、相手を決めてことばを選び、下書きを学習記録にメモする時間である。第1時で集めたことばから、贈りたい相手にふさわしいことばを一つ選び、学習のてびきにしたがって、1相手、2ことば、3贈りたい理由、4この文字をこう工夫してみたい、5参考文献をメモし、下書きを考えていった。

ここでは、学習者一人ひとりが贈りたい相手にふさわしいことばを選ぶことを通して、自己の内なる問題を発見し、贈りたい理由を書き、考えることによって自己の内なる問題の克服を図っていった。そのような、この時間の学習記録及び下書きに、次のように記されている。

メモ

1 相手 悩んでいる人へ

2 ことば 大切なものは目に見えない

3 贈りたい理由

私は悩んだときにいつもこの言葉に助けられているから。

4 この文字をこう工夫してみたい

「大切」という字は力強く大きく書きたい。

5 参考文献・ページ 『星の王子さま』

参考文献を元のことばを選んで下書きするのは案外難しいもので、贈りたい相手には、どのようにしたら伝わるのかを考えるのは大変でした。次の時間は、多分筆だと思いうのですが、一画一画に「思い」を込めて書きたいです。

(R・G 「国語学習記録 成長」

米子市立加茂中学校一年一組 平成二五年九月二六日)

メモ

1 相手 自分

2 ことば 「くり返しの今日がわたしの道をつくっていく。」

3 贈りたい理由

部活で同じような練習をしているけど、積み重ねは大事なのであきらめずにがんばっていかうと思ったから。

4 この文字をこう工夫してみたい

今日と道を大きく書きたい。

5 参考文献・ページ 『ひらけ!ドア』・p 10・p 11

とてもいいのが出来て良かったです。

(A・Y 「国語学習記録 言葉の大切さ」

米子市立加茂中学校一年一組 平成二五年九月二六日)

メモ

1 これからがんばる人へ

2 「……おれらは、まだ始まったばかりじゃねえか。悩むことなんかねえ、これからなんだよ、おれたちは……」

3 今、まだ十三才。新しいことにチャレンジする人もたくさんいると思うから。

4 「おれら」を大きく「始め」と「悩」も大きめに

5 『なによりも大切なこと』p 20 (バッテリー)

参考文献を元のことばを選んで、自分自身にもグツとくるし、人をはげます作品にしたいと思いました。次の時間は、今日より集中してがんばりたいです。

(M・N 「国語学習記録 私らしく」

米子市立加茂中学校一年一組 平成二五年九月二六日)

贈る相手 自分

ことば 「今この場所に立つまで 自分を信じて 今この場所から進む 自分を信じて 力いっぱい夢に向かう」

理由 今、自分の将来の夢はあるけどこんなんでもいいのかなとか、自分には無理なんじゃないかなと不安だったときにこの詩にであったから。

工夫 夢という字を強調したこと。

前の本とは違う本を読んでみたら、今の自分にぴったりの最高の言葉とめぐりあえたので本当に良かったです。

(S・Y 「国語学習記録 努力と成果」)

米子市立加茂中学校 一年三組 平成二五年一〇月一〇日

相手 夢がある人

ことば 「一歩ずつ夢はかなう」

理由 夢は、一歩ずつ、一歩ずつかなえていけばいいと思うたから。なかなかわかない夢だと思っても、少しずつかなっていくと思った。

工夫 「一歩」と「夢」を大きくして、強調したこと。パランスを考えた。「一歩」の歩を工夫した。

ことばを選んで下書きして、いろいろなことが考えられたのでよかったです。書き方の工夫もできまし、その言葉は、すごくいいと思いました。

(M・S 「国語学習記録 歩み」)

米子市立加茂中学校 一年四組 平成二五年一〇月一〇日

R・Gさんは、悩んでいる人へ「大切なものは目に見えない」ということばを贈りたいとし、その理由として、自らが「悩んだときにいつもこの言葉に助けられている」ことを挙げている。ここには、「悩む」という自己の内なる問題に気づき、「大切なものは目に見えない」ということばとの出会いによって、

その克服を図っていく姿が示されている。自分自身が悩んだときに助けられ、自らにとつて価値のあることばだからこそ、悩んでいる人に贈りたいと考える、R・Gさんの優しさがここには表れている。そして、その価値が贈りたい相手には、どのようにしたら伝わるのかを考えたすえ、「大切」という字を力強く大きく書きたいとし、そのうえで次の時間は、一画一画に「思い」を込めて書きたいと抱負を記している。

A・Yさんは贈りたい相手として、自分を選び、「くり返し」の今日がわたしの道をつくっていく。」ということばを贈りたいと書いている。贈りたい理由は「部活で同じような練習をしているけど、つみ重ねは大事なのであきらめずにがんばっていく」と思ったから。」とあり、「今日と道を大きく書きたい。」と記している。A・Yさんは「くり返しの今日の意味」という自己の内なる問題を発見し、「くり返しの今日がわたしの道をつくっていく」ということばによって、その意味を問い返している。そして、今日の「つみ重ね」を大事にして自分の道を切り開いていくという方向を見いだし、その決意を、今日と道を大きく書くことで表現しようとしている。

M・Nさんは、「……おれらは、まだ始まったばかりじゃねえか。悩むことなんかねえ、これからなんだよ、おれたちは……」という『バッテリー』のことばを、これからがんばる人へ贈りたいと記している。贈りたい理由は「今、まだ十三才。新しいことにチャレンジする人もたくさんいると思うから。」であり、「ことばを選んで、自分自身にもグッとくるし、人を



はげます作品にしたいと思いました。」と述べている。そして、工夫したい点として「おれら」を大きく！「始」と「悩」も大きめにと書いている。ここには、「悩み」という自己の内なる問題を発見し、「悩むことなんかねえ、これからなんだよ、おれたちは……」ということばに込められた、「まだ始まったばかり、これからなんだ。」という考え方に共感し、課題を克服していこうとする学習者の姿が示されている。

S・Yさんも、自分に向けてことばを贈りたいと考えている。「今の場所に立つまで 自分を信じて 今の場所から進む自分を信じて 力いっぱい夢に向かう」ということばを、自分に贈りたいと書いている。その理由として、「今、自分の将来の夢はあるけどこんなんでいいのかなとか、自分には無理なんじゃないかなと不安だったときにこの詩にであつたから。」と述べ、「夢」という字を強調した」と記している。S・Yさんは、「不安」という自己の内なる問題に気づき、「自分を信じて 力いっぱい夢に向かう」ということばを得て、課題の克服を図り、夢に向かつて進んでいこうとしている。

M・Sさんは、夢がある人へ「一歩ずつ夢はかなう」ということばを贈りたいと考えた。その理由は、「夢は、一歩ずつ、一歩ずつかなえていけばいいと思ったから。なかなかかなわない夢だと思っても、少しずつかなっていくと思った。」であった。そして、「一歩」と「夢」を大きくして強調したこと、バランスを考えたこと、「一歩」の歩を工夫したことを明記している。感想には、「いろいろなことが考えられたのでよかつ

たです」と記されており、「夢をかなえる」という自己の内なる問題を発見し、いろいろなことを考え、その実現に向けて「一歩ずつかなえていく」という一つの道を見いだしている。

いずれの学習者も、ことばを選び、書くことを通して、「悩み」「不安」「夢」といった自己の内なる問題に気づき、発見していった。ここには、期待と不安が入り混じり、心が揺れ動く中、歩み始めようとする中学生の内面がみてとれる。そのうえで、ことばを贈る理由を書くことを通して、自己の内なる問題と向き合い、考えを深め、課題の克服を図っていった。学習記録には、この時間の学びを通して自己の内なる問題と向き合った跡が、生き生きと記されている。

贈りたい相手を、悩んでいる人、これからがんばる人、夢がある人、大切な人がいる人とした学習者も、自分に贈りたいとした学習者と同じく、その実は自分自身を励ますメッセージを記している。だれかに向けてことばを贈るという形を借りて、悩みながらも、夢を持ち、未来に向かつてこれから踏みだそうとする自分へのメッセージには、まさに学習者一人ひとりの切実な思いが込められ、命がふきこまれている。ことばの学びを通して、自己の問題と向き合い、課題の克服を図っていくことが、学習を真に学習者一人ひとりのものにし、さらに学習記録を書くことで自己の学びを見つめさせることによって、「学習のプロセスがそのまま学習力になる」主体的な学習を成立させたと考える。



第3時は、練習、工夫したいことを書く時間である。半紙に練習し、清書用のサイズの更紙に下書きした。下書きをもとに、そのことばに込められた願いを聞き、思いを伝えるための効果的な書き方の工夫について、一人一人と個別に対話しながら指導した。学習記録に記された第3時の感想は次のようである。

今日の学習は筆に入りました。字を書くときにバランスがくずれてしまつて少し反省するところもあります。次は、清書に入ることになっているので、そのときはバランスに気をつけて、あとは、まっすぐに私の思いが届くよう「工夫」をして自分らしさの出る作品にしたいと思います。

(R・G 「国語学習記録 成長」

米子市立加茂中学校一年一組 平成二五年一〇月七日)

下書きでは、相手に思いを伝えるためにどのように工夫して書くか、実際に書いて工夫を重ねた。工夫のポイントとして、字形、文字の大きさ、配列・配置に再度立ち返るよう指導した。余白にも目を向けるよう指導する良い機会を得た。R・Gさんの感想には、「バランスに気をつけて、あとは、まっすぐに私の思いが届くよう「工夫」をして自分らしさの出る作品にしたいと思います。」と記されており、ここには、この学習者が配列・配置に気をつけようと意識していることが示されている。このように学習記録の感想には、清書に向けての意気込みが記され、清書の時間の学習のめあてが明確になっていった。

第4時は、清書の時間である。黒のボールペンで裏面に作品に添えるコメントを書き、そのうえで、清書した。裏面を書くとき、表面にうつらないよう筆圧を考えて書くよう指示した。ボールペンで書くことも作品の一部であると話し、硬筆の学習の「実の場」と位置づけた。清書用の上質の用紙は一人一枚、やり直しができない、一度きりと伝えたので、学習者は緊張感をもって清書に取り組んだ。第4時で書き上げた作品(資料2)と感想は次のようである。

感想

下書きを完成させて、今日は清書に入りました。力を入れすぎず、それでも全しんけいを筆にそそぎ、書くことができました。シンブルに思いが伝わるように書いたので、見る人の心をどこかで動かしていたら良いなと思います。

(R・G 「国語学習記録 成長」

米子市立加茂中学校一年一組 平成二五年一〇月二日)

清書を終えた学習者の学習記録には、この学習に対する満足感が表れている。R・Gさんは、全神経を筆にそそいで清書し、「見る人の心をどこかで動かしていたら良いな」と願っている。

第5時は、作品の交流を行い、学び得たことを学習記録に書いて、学習を整理する時間である。次に示す学習のてびき2を配付し、4人グループで作品を紹介し合った。

学習のてびき2 一年（ ）組（ ）番（ ）

単元 ことを贈る

— 字形、文字の大きさ、配列・配置を考えて書く—  
学習のめあて

選んだ贈ることば、字形、文字の大きさ、配列・配置の工夫  
を紹介し合おう。

一 交流グループはこのように

\* 4人グループ

A 進行 B 作品提示 C ボード提示 D ボード記入

\* 発表順

B ↓ C ↓ D ↓ A

二 準備

(一) 発表準備・発表内容の確認

1 作品提示のしかた

2 贈りたい相手・贈ることば・贈る理由

3 私はここをこう工夫した

① 字形 ② 文字の大きさ ③ 配列・配置

(二) 交流のポイント

1 それぞれの発表者の工夫

① どこをどのように ② 工夫の意図

2 共通していた工夫

① 字形 ② 文字の大きさ ③ 配列・配置

3 個性的な工夫

このグループにはこんな工夫をしている人がいた

三 作品の交流はこのように

席の移動をすつと

1 (進行) 「単元ことを贈る」の作品交流会をはじめます。

よろしくお願いします。

2 (全員) よろしくお願いします (公的な場での交流に参加  
する構えを作る。)

3 (進行) 発表順はBさん、Cさん、Dさん、私とします。  
作品を示しながら発表してください。全員の発表の後、感  
想を交流します。交流の観点は、字形、文字の大きさ、配  
列・配置について、どこをどのように工夫したかというこ  
とです。では、Bさんどうぞ。

4 (B) (前置きしないでズバツと 作品を示しながら 読  
む×話す○)

はい。私が贈りたい人、贈ることばは、……。その理由  
は……。工夫したのは、……。 (このことばを強調したかつ  
たので、文字を大きくしました。)

5 (進行) 次に、Cさんどうぞ。(D) (A) 発表。(工夫に  
着目して聞く。メモ可。)

6 (進行) それでは、共通していた工夫、個性的な工夫をボー  
ドにまとめましょう。

7 (全員) 意見交流、ボード記入、全体発表者の決定、準備

8 (全体交流 作品提示・作品発表、ボード提示・工夫発表)

9 (進行) これで交流会を終わります。ありがとうございま  
した。席を元に戻し、学び得たことを学習記録に書きましよ  
う。

第5時の交流会は明るい雰囲気に包まれた。4人グループは学習者の実態に応じて、指導者が指定した。紹介したい内容があり、準備を整えて、交流のしかたを具体的に指導したため、目的にそった交流会を行うことができた。照れながらも自らの選んだことばの良さを伝えたくて、懸命に紹介し合う姿が見られた。学習になかなか向き合えない学習者もグループの交流会には楽しんで参加した。

目標に掲げた、字形、文字の大きさ、配列・配置の工夫に着目させたいと考え、交流の観点を絞った。内容に応じて文字を大きくして強調するといった共通していた工夫、配列・配置の工夫のほか、個性的な工夫についても交流した。

全体交流会では、各グループがとくに紹介したい作品をとりあげ、ミニボードを活用して黒板に掲示し、発表後、共通していた工夫を整理した。交流会の感想は次のようであった。

伝えたい思いや自分をすっきりさせたい言葉。一つ一つの言葉に深い重みがあるということを感じました。こういう時間はなければならぬと思いました。

(S・Y)「国語学習記録 努力と成果」

米子市立加茂中学校 一年三組 平成二五年一〇月二九日

S・Yさんは「伝えたい思いや自分をすっきりさせたい言葉。一つ一つの言葉に深い重みがある」と感想を述べている。お互いの作品の交流を通して、自己の内なる問題と向き合いことば

に託した思いを共有し合うとともに、その思いをどのようにに表現したか、その工夫を学び合うことができた。交流の場はそうした協働的な学びの場であり、優劣をこえて、お互いを理解し合う人間関係づくりの場として機能したと考えている。

R・Gさんは、単元全体のまとめとして、学習記録に次のように記している。

単元全体を通して学び得たことは、心を休める時間は大切だということでした。この時間は、自分自身と向き合う時間となりました。そこで、集中力を高めることも、一年の最初と比べたら、ずいぶんと出来るようになったと思います。そして、その集中する時間こそが、心を休めることへとつながっていたりして、良かったです。言葉を上手に伝えるために必要なことは、「思いやり」なのではないでしょうか。

(R・G)「国語学習記録 成長」

米子市立加茂中学校 一年一組 平成二五年一〇月二八日

R・Gさんは、学習に真摯に向き合った学習者の一人であった。揺れ動く自分の心に悩むR・Gさんは、ことばの学びを通して、自分自身と向き合い、自己の内なる問題を発見し、課題の克服を図っていった。ここには、この時間がR・Gさんにとって、波立つ自分の心を集中させ、心を休めるかけがえのない時間となっていることが示されている。

## おわりに

学習者は自己の内なる問題と向き合いつつ、ことばを選び、意欲的に書写の学習に取り組んでいた。本単元の学びを通して、目標に掲げたことばへの関心を育て、実際に工夫を凝らして書写作品を書き、文字文化に親しむ態度を育成することができた。何より実際に主体的・意欲的に学習に向き合わせ、学習に向かう姿勢を向上させ得たことが大きな成果であった。

本稿では、豊かな言語生活を育むための橋本暢夫氏の提言に基づいて、「単元 ことばを贈る」をとりあげ、「学習者個々の内なる問題・克服すべき課題にどのように気づかせ、発見させたか」、「その際『書き 考える』活動を通じて、問題発見・課題の克服をいかに図ったか」ということに着目し、学習記録の記述に即して考察を試みた。

考察を通して、本単元においては、贈りたい相手を決め、ことばを選び書作品を書くという生活的な言語活動の実の場を設定することによって、学習者一人ひとりに自己の内なる問題に気づかせ、発見させたことを明らかにした。さらに、学習記録を「書き 考える」活動を通して、自己の内なる問題と向き合い、課題の克服を図っていく学習者の姿を実証した。学習者は、ことばの学びを通して自己の内なる問題を発見し、学習記録を書き、考える活動を通じて課題を克服していくことを体得しており、本単元は「学習のプロセスがそのまま学習力となる」営みの具体的なモデルとしてとらえることができると考えている。

今後の課題として、実践してきた他の単元についても、「自己の内なる問題と向き合う」という観点から考察し、自己の国語教室の特質を実証的に明らかにしていきたい。

## 注

- (1) 『月刊国語教育研究 No.515』 日本国語教育学会編、二〇一五年三月、一頁
- (2) 大村はま記念国語教育の会研究大会横浜大会 シンポジウム、二〇一四年二月六日
- (3) 『うた』に託して思いを伝える学習指導の試み」第一五回鳴門教育大学国語教育学会研究発表、二〇〇〇年八月二〇日

(二〇一五年五月三〇日稿)  
(いぎ ひろし・ノートルダム清心女子大学)

著 者 名	著者・編者	出版社	分類	所蔵
1 元気が出る日本人100人のことば	1 晴山陽一・監修	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
2 元気が出る日本人100人のことば	2 晴山陽一・監修	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
3 元気が出る日本人100人のことば	3 晴山陽一・監修	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
4 元気が出る日本人100人のことば	4 晴山陽一・監修	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
5 元気が出る日本人100人のことば	5 晴山陽一・監修	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
6 ひらけ！ドア	柴川 波	PHP研究所	189に・読者の書	189に・読者の書
7 10くせひとつてキミは変わる	佐藤 直雄	PHP研究所	189に・読者の書	189に・読者の書
8 32歳の君のちいさいボー	ナカムラミコル	宝島社	189に・読者の書	189に・読者の書
9 値じる朝日に西かつて	コンドウ アキ	宝島社	189に・読者の書	189に・読者の書
10 だららん日和	中村俊雄	文芸春秋	189に・読者の書	189に・読者の書
11 夢をかなえるサッカースー	男玉 光雄	文芸春秋	189に・読者の書	189に・読者の書
12 心の「一」が人生を変えるイテロ一思考	森田 英祐	PHP研究所	189に・読者の書	189に・読者の書
13 サッパ・リナー	森田 英祐	PHP研究所	189に・読者の書	189に・読者の書
14 ハッピー・リナー	森田 英祐	PHP研究所	189に・読者の書	189に・読者の書
15 ことばに学ぶ生き方 西洋篇	荒井 潤	おたけの書房	189に・読者の書	189に・読者の書
16 10kmのやちんもどくーにーにか	ながわ みどり	二重書房	189に・読者の書	189に・読者の書
17 17くぐけい	柴田三三	飛鳥新社	189に・読者の書	189に・読者の書
18 ナカムラ・ミル	PHP研究所	飛鳥新社	189に・読者の書	189に・読者の書
19 キミが、たいせつ。	ナカムラ・ミル	飛鳥新社	189に・読者の書	189に・読者の書
20 スーパー・たいちの人生案内	チャールズ・M	飛鳥新社	189に・読者の書	189に・読者の書
21 楽しい歌	森田 英祐	飛鳥新社	189に・読者の書	189に・読者の書
22 泣いていいよ！	倉根 輝子	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
23 あきらめないで	佐野 有美	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
24 うれい	レイフ クリスチャン	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
25 12のつづり	シャーリン コスタ	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
26 わたしとちの名書Bast100	ディスカヴァー・トゥエンティ	ディスカヴァー・トゥエンティ	189に・読者の書	189に・読者の書
27 わたしとちの名書Bast100	ディスカヴァー・トゥエンティ	ディスカヴァー・トゥエンティ	189に・読者の書	189に・読者の書
28 わたしとちの名書Bast100	ディスカヴァー・トゥエンティ	ディスカヴァー・トゥエンティ	189に・読者の書	189に・読者の書
29 わたしとちの名書Bast100	ディスカヴァー・トゥエンティ	ディスカヴァー・トゥエンティ	189に・読者の書	189に・読者の書
30 10代の名書 1	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
31 10代の名書 2	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
32 10代の名書 3	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
33 10代の名書 4	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
34 10代の名書 5	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
35 10代の名書 6	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
36 10代の名書 7	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
37 10代の名書 8	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
38 10代の名書 9	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
39 10代の名書 10	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
40 10代の名書 11	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
41 10代の名書 12	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
42 10代の名書 13	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
43 10代の名書 14	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
44 10代の名書 15	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
45 10代の名書 16	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
46 10代の名書 17	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
47 10代の名書 18	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
48 10代の名書 19	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
49 10代の名書 20	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
50 10代の名書 21	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
51 10代の名書 22	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
52 10代の名書 23	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
53 10代の名書 24	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
54 10代の名書 25	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
55 10代の名書 26	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
56 10代の名書 27	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
57 10代の名書 28	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
58 10代の名書 29	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
59 10代の名書 30	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
60 10代の名書 31	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に・読者の書
61 10代の名書 32	西本 真介	ポプラ社	189に・読者の書	189に

1 悩んでいる人へ

2 大切なものは目に見えない

3 私、悩んだときにはいつもこの言葉を胸にかけ、乗り越えているから。

4 「大切」という字は力強く、大きく書きたい。

5 星の王子さま

6 年月日

大切なものは

目に見えない

梨菜書

くり返しの今日が

わたしの道を

つくっていく

あすか

1 相手 自分

2 ことば「くり返しの今日がわたしの道をつくっていく」

3 贈りたい理由・部活で同じような練習をしている

けど、つみ重ねは大事なもので、あきらめずにがんばっていかうと思った。

4 エッセイ「今日と道」を大きく書いた。

参考文献「ひらけ！ドット」



／ 一これか「がんばる人」へ

「…… おれらは、まだ

始まらば、かじねえか。

悩むことはねえ、これからなんだよ、おれたちは……

3 今、まだ十三才。新しいことにチャレンジする人もたくさん

いると聞いただけから、

4 「おれら」を大きく、「始」「悩」も大きく、

う。なによりも大切なこと。pg

(バ、テリー、ン)

平成十五年 月 日

…… おれらは、まだ

始まらば、かじねえか。

悩むことはねえ、これからなんだよ。

おれたちは……  
美優音

今この場所に立つまで

自分を信じて

今この場所から進む

自分を信じて

力いっぱい 夢に向かう

紫雨書

贈る相手：自分

理由

今、自分の将来の夢は

あるけど、こんなでいいのかな

とか自分には無理なんじゃないか

と不安だったときにこの詩に

であっけから

工天夢といふすゝも、ありしたこ

平成十五年四月一日

10/8



夢は 一糸のすつ、一糸のすつ、一糸のすつ、  
 二と三と、たたらな、なが、なが、なが、  
 二と三と、たたらな、なが、なが、なが、  
 二と三と、たたらな、なが、なが、なが、

理 甲

[illegible]

Handwritten signature: *Handwritten signature*

相子

一歩ずつ進めよう

かけがえのない

時間

梨菜書

贈りたい相手

の本切な大がけ及人へ

(2)

かけがえのない  
宝物

理曲

おつたのさい時間には、さう大忙しな  
とすごす時間だといふ。だから

工夫

時間にはたせつたと思ふ。たが、り  
大さく強ちうした

平成二十五年十月二十三日(水)

$$\frac{10}{23}$$